

令和5年度第1回丹波篠山市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和5年9月22日（金） 19時00分～21時25分

2 場 所

丹波篠山市立西紀老人福祉センター 2階健康教育ホール

3 会議に出席した構成員

市 長 酒井 隆明
教育委員会
教 育 長 丹後 政俊
教育委員 西田 正志
教育委員 山本 恭子
教育委員 鈴木 友美
教育委員 吉良 佳晃

4 事務局出席者

学 校 教 育 部 部 長 西 羅 忠 和
こども未来部 部 長 稲 山 悟
社 会 教 育 部 部 長 小 林 康 弘
学 校 教 育 部 次 長 岸 田 幸 雄
教 育 総 務 課 課 長 酒 井 寛 興
学 校 教 育 課 課 長 浅 田 智 広
教 育 研 究 所 所 長 足 立 圭 吾
学 校 教 育 課 指 導 主 事 木 村 匡 宏
教 育 総 務 課 課 長 補 佐 山 内 俊 秀

5 次第及び協議事項

別紙の通り

酒井市長	<p>1 開会</p> <p>皆様、お忙しい中ありがとうございます。本日は今年度、初めての会議を開催させていただきました。市長が入り教育委員とともに、教育行政を議論する大切な機会であり、本日は教育大綱の更新及び教職員の働き方改革の取組について、協議させていただきたい。</p>
酒井市長	<p>2 協議事項</p> <p>(1) 教育大綱の策定について</p> <p>教育大綱については、前大綱が令和4年度までとなっており、新たに策定する必要がある。この4年間の検証を踏まえ、次期大綱について、意見交換したく思う。資料について、事務局より報告願う。</p>
酒井課長	<p>●資料に基づき説明</p>
酒井市長 丹後教育長	<p style="text-align: center;">＜主な意見交換内容＞</p> <p>大綱について、教育現場にどの程度浸透しているのか。</p> <p>毎年度、教育方針を示す中、その上に教育大綱や教育振興基本計画があることにも触れており、理念含め目指す姿の共通理解はできていると思っている。</p>
酒井市長	<p>1. ふるさと教育について</p> <p>一覧を見ると学校間で取組の差があるような気がしている。改善の余地があるのではないか。</p>
西田委員	<p>味間地区のまちづくり協議会でメダカの固有種の取組をしているが、学校との連携が不十分なせいか、出てきていない。同様の事例もあると思うので、見直し、教育課程の中に位置づけていく必要はあると思っている。</p>
丹後教育長	<p>本市にとって大事な教育であると思っている。ともすれば、この学校、この学年ではこの取組を行うということで形骸化する恐れもある。伝統を受け継ぐことは大事であるが、何のために取り組むのか、子どもたちにどのような力をつけさせたいのかに、今一度、立ち返る必要がある。ふるさと教育を通じて基礎的・汎用的能力を育むことを理解しながら取り組んでいくことが大事であると思っている。あわせて、先般の一般質問でも議論になったが、ふるさとを好きになる、愛することは大事であるが、さらに自分がふるさとの当事者として何ができるのか、「シビックプライド」の意識も育みたいと思っている。</p>
吉良委員	<p>今、時代の流れの中で「SDGs」があるが、グローバルな話であり、直感的に分かりにくい。それに対し、篠山では自然や生き物を媒体にふるさとの良さにつながっており、理解しやすいと思う。大綱については、これま</p>

	<p>での協議もあり、中身としてはすばらしく、組立てを変更することで体系ができると思う。構成については、ふるさと教育の項目の中に「木育」も入ってくると思う。</p>
西田委員	<p>もう少し簡素な大綱もある一方でもっと細かいものもあるが、ボリュームは現在程度が良いと思う。内容については、市民のスポーツ振興の次に部活動の記述がある等、社会教育と学校教育が混在している。生涯学習の観点から、全ての市民を対象に、ライフステージに応じた学習機会をどのように確保する等の整理が要るように思った。</p>
酒井市長	<p>教育行政を満遍なく網羅するのではなく大綱であり、特に力を入れていきたいことを記述している。</p>
山本委員	<p>益々、学校と地域との連携が重要となる中で、教育大綱については、学校の先生は頭にあると思うが、地域への浸透はまだまだであると思う。</p>
酒井市長	<p>学校給食については、日本一にもなり成果を上げていていると思う。「学校にヒーローをつくろう」については、意図したものとは違う部分もあるが、良く取り組んでいただいております、それぞれの学校で特色のあるヒーローを作ること、ふるさとや地域への愛着等に繋がっていると思う。</p>
西田委員	<p>農都を掲げる本市の子どもたちには、農業の大切さを理解してほしいと思っている。先日、草を焼いている横を通った低学年の子どもたちが鼻をつまんだのを見て、本当にショックに感じた。</p> <p>また、給食は日本一である一方、食育として栄養教諭がどのように下支えしていくのが大事なことであると思う。</p>
吉良委員	<p>暮らしに紐づいた農業の記述は多いが、キャリア教育の視点からは憧れる、格好いい職業とは見えていない。身近に農業がありながら、体験レベルは都市部と余り差がない形の結果であるのかもしれない。</p>
酒井市長	<p>これまでから学校訪問時に環境に配慮した「農都のめぐみ米」の使用について説明してきたが、学校の先生はあまりご存じなかった。パンフレットも配布していたが、十分に浸透していないこともあり、生産者による給食時訪問を実施した。また、昨年度より兵庫県内の給食で丹波篠山茶が使われているが、学校の先生には伝わっていなかった。給食センターは地元食材の使用に努めているが、使用して終わりではなく生産者の声を子どもたちに聞いてもらうことが大事であると思っている。</p>
西田委員	<p>校長であった時は、施政方針や教育方針、教育大綱を読み込んだ上で、職員会議で教職員に説明し、教育の中に取り込むように話してきた。説明機会の確保も大事であるが、校長がどのように受け止め、職員を指導していくのかも大事なことであると思う。</p>
酒井市長	<p>それは市長には出来ないことであり、教育委員会による指導を願う。</p>
吉良委員	<p>例えば、各校で実施している農業体験の受入れ農家では、農都のめぐみ米を説明できるのか。子どもたちにとっては、聞くだけではイメージが難しいので、体験が媒体となりつながることも必要であると思う。都会では</p>

丹後教育長	<p>できないそうした教育ができる環境に本市はあると思う。</p> <p>実際に家業としての農業者が少ない中で、入口の体験として、黒大豆の栽培や米づくりを体験している。入口の体験を広げ、深めていくことが必要な時代なのかもしれない。</p>
西田委員	<p>ほとんどの学校で米づくりには取り組んでおり、その協力農家と連携して、農都のめぐみ米を作れるように、支援者を増やしていくことも手法の一つであると思う。</p>
酒井市長	<p>学校説明の際に、子どもたちが憧れるような生産者に行ってもらうのも方法である。</p>
西田委員	<p>増えている若い農業者に、学校に入ってもらえればと思う。</p>
酒井市長	<p>市内の2～3割で農都のめぐみ米を栽培いただけるようになったのは、子どもたちのためにといいことで、学校給食に使っていることが大きい。</p>
鈴木委員	<p>生産者が学校を訪問することは、有効なことであると思う。子どもが小学校から資料を持ち帰り、農都のめぐみ米が給食で使われていることを説明してくれた。日常の授業とは違うことは印象に残るものであると感じた。継続して、生産者に来ていただけたら嬉しく思う。</p> <p>ふるさとは良いところであることを教えることは大切なことである。</p>
酒井市長	<p>2. 子ども・子育て支援の充実について</p> <p>本市でも色々取り組んでいるが、市民や子育て中の方に子育てが充実していると思っていただけることが大切である。近年、子育て施策については、その中身よりも無償化が良いとの風潮もあり、各自治体間で競い合いになっている。給食の無償化はできずとも、その質は日本一である。市民からは明石市に習えと言われるが、どの施策かを尋ねると答えがないことが多い。無償化イコール優れているとのイメージには違和感もあり、子育て施策のPRに何を打ち出せばよいのか苦慮している。</p>
山本委員	<p>子育て施策については、お金のこともあるが、人とのつながりがより必要であると思っている。ともすれば子育て中は孤独であり、安心できる居場所があれば嬉しく感じる。抽象的であるが、人のつながりが持てるようなシステムづくりを本市でできれば良いと考える。</p>
鈴木委員	<p>無償化が優れているとは思っていない。本質はそこではないと思う。子育て中は孤独を感じることも多くある。居場所については、子どもを産んでからでは遅く、マタニティ期からつながりが持てるような形をつくっていくことが子育ての充実につながっていくと思う。</p>
西田委員	<p>無償化については、本来、国が請け負うべきものであり、自治体が競争すべきものではないと思っている。山本委員や鈴木委員が提案された「つながり」について、例えばMy助産師制度が有効ではあるが、次の段階である子育てふれあいセンターは規模も小さく、数も少ない。児童館等を含め、多くの場所、施策、機会を浸透させていくことも大事であると思う。</p>

鈴木委員	My 助産師制度の次には、赤ちゃんが来たプログラムや兄弟が来たプログラムがある。そこでのつながりは強く、長く続いているように見受ける。参加率はそこまで高くないが、多くの方に参加いただきたい施策である。また、My 助産師制度や赤ちゃんが来たプログラム等の施策は、単体の施策になってしまっていると感じるので、段階ごとの施策や施設をしっかりと紹介していけるような連携が必要であると思う。
丹後教育長	不十分な面もあるかもしれないが、そうしたつながりの場を大切にしていること、準備しようとしていることを記述していくべきと考える。
酒井市長	3. 地域とともにある学校 学校は地域とともにあるとの視点で、地域の人の参画を得て色々と取り組んでいただいているが、子どもたちが少なくなる中で地域との関りが少なくなることも危惧される。地域の学校として、地域の声を聞いてもらうとともに、運営以外でも子どもたちと地域の方が触れ合うことも必要であると思っている。
山本委員	人口減少に伴い地域の人も少なくなり、余裕がない時代になりつつある中であって、学校と地域がウィン・ウィンの関係が築けていければと思っている。
西田委員	学校側に、「学校は市民みんなのもの」との意識が弱いと感じている。逆に言えば、「地域とともにある学校づくり」の両方の考え方があってこそ、うまくいくと思う。また、コミュニティ・スクールにおいては、コロナ禍で停滞していた活動をどのように立て直していくのか、目標を持って取り組んでいくのかを考えていく必要がある。その一つとして、熟議とコーディネーターが大事になってくると思う。
吉良委員	PTA 等においても人手不足が顕著で、各人の負担が大きくなっており、大学生等、若手のプレーヤーも必要であると思っている。古市地区でも地域おこし協力隊の大学生が参画しているが、保護者の立場ではない視点の新しさやバイタリティーがあふれており、こうした人材の積極的な活用施策を打っていくことも必要である。
西田委員	大学生等が地域に参画している西紀南地区や西紀中地区は元々、元気な地区である。大学生等を受け入れる学校や地域の土壌もあると思う。
吉良委員	必ずしも施策を打ったわけではなく、たまたま何かがかみ合ったという面もある。地域の方々の尽力と施策がうまくかみ合うような方針をお願いしたい。
西田委員	4. 学力の確立と向上について 一人も見捨てないとの記述については、今は文科省も「誰一人取り残さない」を使用しており、修正した方が良い。
酒井市長	市内 3 高等学校との連携については、県は統合を検討しており、これま

丹後教育長	<p>での3高校を盛り上げることから転換し、高校の在り方の検討を始めた。高校を選ぶ際の視点、地域にとってどのような高校が望ましいかを検討する予定である。県はあるべき姿として、普通科は6~8クラス、職業科は3クラス以上との基準を示している中、鳳鳴高校は4クラスしかない。少子化が進む中、3高校を残すことは不可能と考え、議論を始めたところである。</p> <p>中学校とも連携し、魅力ある高校づくりを進めながら、できれば篠山で高校時代まで過ごしてもらいたいと思っている。</p>
酒井市長	<p>ふるさと教育については、小学校や中学校で終わる訳ではなく、高校になっても続くものである。鳳鳴高校でも、地域探求の授業で、市の課題解決に向け提案してくれる。これまでの力を入れなくても入学者が確保できていた時代は過ぎた。教育委員会でも検討いただきたい。</p>
酒井市長	<p>5. スポーツに親しむ</p> <p>スポーツ振興官の設置や部活動の指導等において、色々と力を入れていただいている。一方で、丹南中学校ソフトボール部は市を越えて氷上中学校と合同チームを結成しているが、篠山東中学校や西紀中学校にソフトボール部の部員はいないのか。</p>
木村指導主事	<p>3年生の引退後、本市は丹南中学校のみ、丹波市も氷上中学校のみとなったため、合同チームとなった。</p>
酒井市長	<p>少子化が進展する中、部活動については残したい、ある程度減っても仕方がない等の考え方もある中、この総合教育会議でも激しい議論を行い、基本的には残していくとの考えの下、部活動支援員や部活動推進員の配置に取り組んでいる。今後においても、できるだけ子どもたちがやりたい種目が部活動でできるように配慮してほしい。</p>
西田委員	<p>男女ソフトテニス部の部員が多い理由は何か。また、吹奏楽部について、篠山中学校が少ない一方で、丹南中学校が多い理由はあるのか。</p>
木村指導主事	<p>近年は個人種目が人気の傾向にある。</p>
西田委員	<p>今田中学校の場合、1~2年生で37名であり、部活動については、ほとんど選択の余地がないとともに、合同チームにならざるを得ないのが現状である。学校規模として、どうしようもないところまで来ていると感じる。</p> <p>合同チームは、中学校体育連盟が主催する大会に出場できるのか。</p>
木村指導主事	<p>中学校体育連盟の規定では、チームを強くするための合同チーム設置は認められないが、足りない学校同士で設置した合同チームの大会への参加は救済措置として認められている。</p>
酒井市長	<p>合同チームを設置するためには、部活動として存続している必要があり、廃部となってしまうと合同チームを設置する道も閉ざされる。</p>
西田委員	<p>クラブチームとの合同チーム化は認められているのか。</p>
木村指導主事	<p>それぞれの種目で規定があり、ソフトボールの場合は、クラブチームと</p>

酒井市長 木村指導主事	<p>の合同は認められない。</p> <p>クラブチームの総体への参加は可能か。</p> <p>中学校体育連盟の規定はそれぞれの種目で定められているが、基本的には、土日のいずれかは休みとする等、部活動ガイドラインに沿った活動をしていることが前提で、申請すれば参加が可能となる。</p>
酒井市長	<p>クラブチームについては、指導者確保を含めた体制づくりが課題であると認識している。</p>
丹後教育長	<p>6. 丹波篠山ならではの文化を育む</p> <p>木育については、小学校への丹波篠山産の机イスの導入も完了する中、記述をそのまま残すのか等を検討する必要がある。</p>
酒井市長	<p>少子化により中断した祭礼もある中、小学生に地域の祭りに参加してもらいたいと思っている。</p>
西田委員	<p>確かに祭の維持が難しくなっている。小学校区単位でできることもあるのかもしれない。</p>
丹後教育長	<p>現在の記述が一般論に留まっているので、市長の言われた祭の維持も含め、力を入れることがあれば記述したらよいと思う。</p>
西田委員	<p>伝統的な文化の継承も大事であるが、新たな文化の創造も大事なことである。例えば、市民ミュージカル等の記述があっても良いと思う。</p>
吉良委員	<p>木育は自然とふれあう教育に記述してもよいのではないか。</p>
酒井市長 西田委員	<p>7. あいさつの励行について</p> <p>継続する予定であるが、最近の状況は。</p> <p>継続的に頑張っており取り組んでいると認識している。</p>
酒井市長	<p>本日の協議も踏まえ、修正、追加、更新等の意見を提出願う。</p>
酒井市長	<p>(2) 教職員の働き方改革の取組について</p> <p>教職員の働き方改革については、近年、全国的にも課題になっている。そうした中、本市の現状及びこれまでの取組等を確認した上で、意見交換できればと思う。資料について、教育委員会事務局より報告願う。</p>
浅田課長	<p>●資料に基づき説明</p>
酒井市長	<p><主な意見交換内容></p> <p>教職員の働き方については、改善が図られつつあると認識しているが、現状は。</p>
浅田課長	<p>確かに様々な取組により、改善を図ってきているが、国の議論において</p>

<p>酒井市長</p>	<p>も、8月28日に緊急的に取り組むべき施策の提言が出ていることを含め、まだ道半ばであると認識している。</p>
<p>浅田課長</p>	<p>資料に記述のある子どもの抱える困難の多様化について、教員は時間を要することが多いのか。</p>
<p>酒井市長 浅田課長</p>	<p>不登校児童生徒については家庭訪問等を実施すること、児童虐待や貧困については社会福祉課等との連携した形で対応が必要となるが、その人数が増えてくれば、当然、負担も大きくなっていく。</p>
<p>酒井市長 浅田課長 西田委員</p>	<p>教頭や中学校の先生の超過勤務時間が長くなっている理由はあるのか。 中学校は部活動や生徒指導業務、教頭は教頭にしかできない業務が多く、これは全国的に見ても同じような傾向にある。</p>
<p>酒井市長 浅田課長 西田委員</p>	<p>中学生の不登校増加に驚いているが、全国的に同じ状況であるのか。 不登校児童生徒の増加は全国的に見られる状況である。 教員の勤務については特殊性があり、以前と比較して多忙なことは確かである。資料中の超過勤務時間数は記録簿が基となる数値であるのか。 記録簿からの数値である。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>超過勤務時間数については、正確な時間が分かるシステムではなく、記録簿による数値であることは留意しておく必要がある。</p> <p>また、国からの通知で標準授業時数を大幅に上回っている教育課程の編成の見直しについての言及があるが、これまで現場では標準授業時数を下回らないようにきつく指導してきた。働き方改革の旗印の下、県や文科省がこれまで頑張ってきた教員の足元を掬うような言及の仕方についてはいかがなものかと感じる。学校には標準授業時数があり、学年ごとに何時間やりなさい、年間で下回っていけないと決まっており、これまで文科省は、その時数に至らなかった場合は単位履修を認めないくらい厳しく指導してきたにも関わらず、今回の通知で方針が転換している。方針転換自体は良いことであるが、意図については、丹波教育事務所に問い合わせ、確認いただきたい。また、採用数の拡大により既卒受験者の多くが正規教員として採用され、臨時講師のなり手が減少したと記述があるが、実態を分かっている。絶対数が足りないのが実態であり、国は何も分かっている。</p>
<p>酒井市長 木村指導主事 西田委員</p>	<p>中学校の先生の負担ともなっている部活動について、土日の地域移行が示されているが、本市の取組状況はどうか。 令和5年度から、対応可能な種目から取り組んでいる。</p>
<p>酒井市長 西田委員</p>	<p>地域移行については、地域の人が部活動を指導しても良いとともに、部活動指導を行いたい教員は活動できる。部活動が好きな教員は引き続き取り組むことができるものであるが、今の子どもたちの在り様を踏まえた教員のあるべき姿を鑑みると、個人的には私は好きだから取り組むということ通用しないと思う。</p> <p>国の方向性はどうか。 上手く進まない中、少しトーンダウンしているのは気になる。また、兵</p>

	<p>庫県の場合はスポーツ 21 が地域移行の受け皿として想定されているが、現状はそこまで成熟している組織ではなく、受け皿になり切れないのが実情である。</p>
<p>酒井市長 西田委員</p>	<p>難しくとも、そうしなければ土日の拘束時間が減らないと思う。 暴論ではあるが、教育課程から部活動を外さないと改善できないと思っている。</p>
<p>酒井市長 西田委員</p>	<p>私は逆に教育課程に置いた上で、取り組みたい教員は自主的に取り組んだらよいと思っている。 法的に管理責任を問われることから、自主的に取り組むということではできない。</p>
<p>酒井市長 丹後教育長</p>	<p>心の成長を促す部活動は教育活動にとって大事なことであると思っている。教室の中での勉強とも違うことを部活動で学ぶことができる。 色々な要因で多忙になっているとともに、そうしたことが世間に流布され、教員の成り手が不足している。こうした中、市費の投入を伴うがスクールサポートスタッフの導入等により、少しでも教員の負担軽減を図っていければと思っている。できる対応をしながら、先生が子どもたちの教育に集中できる、自分の生活を大事にできる形をつくっていきたい。</p>
<p>西田委員</p>	<p>国が示す働き方改革であり、自治体の財政力によって差が出てくるのはおかしい。国において適切な処置を講じるように、市長からも国等に要望いただきたい。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>引き続き、教職員の待遇改善に向け、教育委員会の皆様とともに取り組んでいきたい。</p>